
2018年度 決算 及び
2019年度 業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2019年5月9日

-
1. 2018年度 決算の概要 P. 2
 2. 2019年度 業績見通しの概要 P.13
 3. 参考資料 P.22

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2019年5月9日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2018年度 決算の概要

決算ハイライト

当期純利益は、ほぼ前期並み

(単位：億円)

親会社株主に帰属する

売上高

営業利益

当期純利益

+6.4%

-14.1%

-1.1%

8,350 → 8,886

698 → 600

456 → 451

17年度

18年度

17年度

18年度

17年度

18年度

- マテリアル、ヘルスケアともに販売堅調で売上増
- 原燃料価格上昇やCSP社*の新規受注獲得に伴う一時費用増が営業利益を押し下げ
- 当期純利益は、ほぼ前期並み

* 米国子会社のコンチネンタル・ストラクチャル・プラスチックス社（以下CSP）

◆ 経営成績

	(億円)				(億円)				
	17年度	18年度	差異	増減率	17年度	18年度	差異	増減率	
売上高	8,350	8,886	+536	+6.4%	設備投資 ^{*4}	446	628	+182	+40.8%
営業利益	698	600	-98	-14.1%	減価償却費	457	476	+19	+4.2%
営業外損益	-20	3	+23	-	研究開発費	359	364	+5	+1.4%
経常利益	678	603	-76	-11.1%	2018年度 配当金				
特別損益	1	1	+0	+29.5%	中間 30円/株 期末 40円/株 年間 70円/株				
税金等調整前 当期純利益	679	604	-75	-11.1%	(期末：100周年記念配当10円/株を含む)				
親会社株主に帰属する 当期純利益	456	451	-5	-1.1%	◇ P L 換算レート				
ROE ^{*1}	12.5%	11.2%	-1.3%		17年度	18年度	差異		
営業利益ROIC ^{*2}	11.2%	9.3%	-1.9%		円/米ドル	111	111	+0	
EBITDA ^{*3}	1,155	1,076	-79		円/ユーロ	130	128	-1	
					米ドル/ユーロ	1.17	1.16	-0.01	

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ 営業外損益

	(億円)		
	17年度	18年度	差異
受取利息	10	10	+0
受取配当金	20	23	+3
持分法による投資利益	12	4	-8
デリバティブ評価益	-	24	+24
雑収益	18	11	-7
営業外収益 計	60	72	+12
支払利息	26	35	+9
為替差損	-	8	+8
デリバティブ評価損	31	-	-31
雑損失	22	26	+4
営業外費用 計	80	70	-10
営業外損益 計	-20	3	+23

◆ 特別損益

	(億円)		
	17年度	18年度	差異
固定資産売却益	56	3	-53
投資有価証券売却益	6	48	+43
受取和解金	-	45	+45
その他	6	3	-3
特別利益 計	68	99	+32
固定資産除売却損	41	23	-18
減損損失	11	60	+49
その他	15	15	+1
特別損失 計	67	98	+32
特別損益 計	1	1	+0

◆ 財政状態

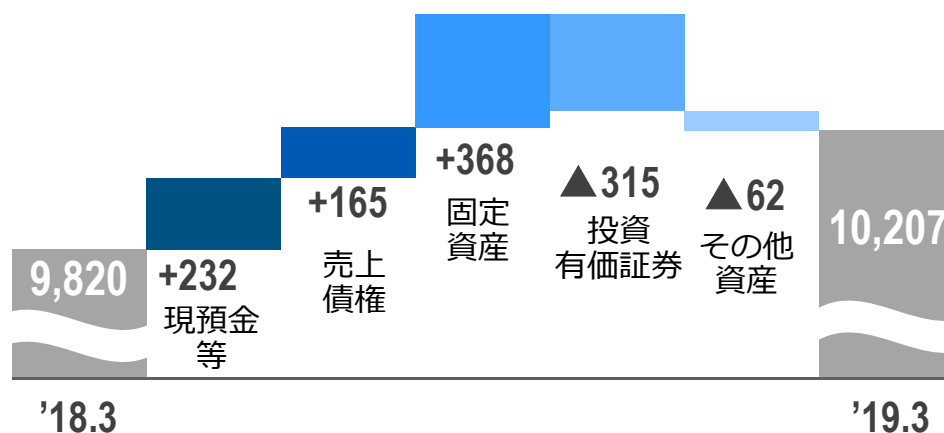
				(億円)
	18年 3月末*	19年 3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,820	10,207	+387	+5
負債	5,737	5,934	+197	+10
(内 有利子負債)	3,442	3,692	+250	+19
純資産	4,082	4,272	+190	-6
D/Eレシオ	0.88	0.90	+0.02	-

◆ キャッシュ・フローの状況

	17年度	18年度	差異
営業活動	801	809	+8
投資活動	-513	-413	+100
フリー・キャッシュ・フロー	288	396	+108
財務活動他	-302	-155	+146
現金及び 現金同等物増減	-14	243	+257

* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を18年3月末に遡って反映

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



◇ BS換算レート

	18年 3月末	19年 3月末	差異
円/米ドル	106	111	+5
円/ユーロ	131	125	-6
米ドル/ユーロ	1.23	1.12	-0.11

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移

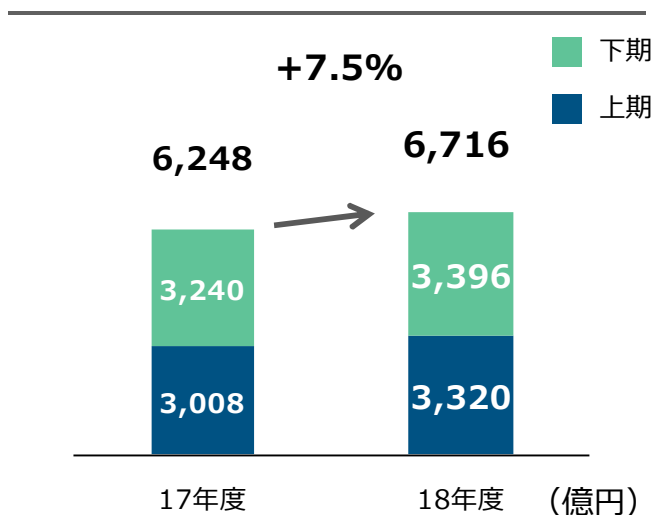
					(億円)			
	17年度 実績	18年度 実績	差異	増減率	18年度 前回見通し*	18年度 実績	差異	増減率
売上高								
マテリアル事業	2,541	2,639	+99	+3.9%	2,700	2,639	-61	-2.2%
繊維・製品事業	2,932	3,183	+251	+8.5%	3,200	3,183	-17	-0.5%
複合成形材料事業ほか	775	894	+118	+15.3%	900	894	-6	-0.7%
マテリアル 計	6,248	6,716	+467	+7.5%	6,800	6,716	-84	-1.2%
ヘルスケア	1,554	1,575	+21	+1.4%	1,550	1,575	+25	+1.6%
その他	548	595	+47	+8.6%	550	595	+45	+8.2%
合計	8,350	8,886	+536	+6.4%	8,900	8,886	-14	-0.2%
営業利益								
マテリアル	336	235	-101	-30.1%	235	235	-0	-0.0%
ヘルスケア	359	355	-5	-1.4%	365	355	-10	-2.9%
その他	61	72	+10	+16.7%	65	72	+7	+10.2%
消去又は全社	-59	-61	-2	-	-65	-61	+4	-
合計	698	600	-98	-14.1%	600	600	0	0.0%

* 前回見通しは2019年2月4日公表

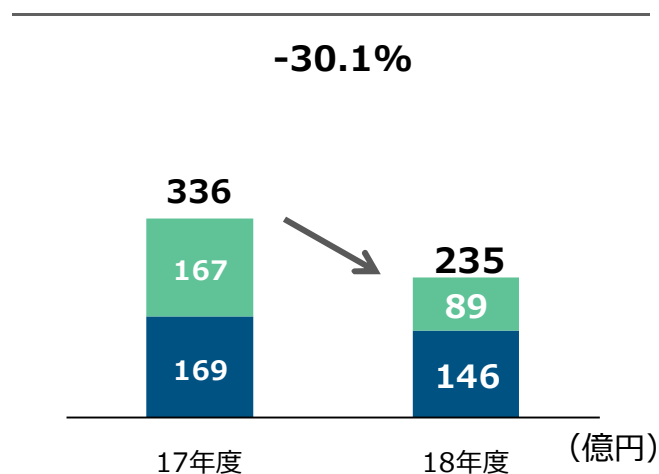
マテリアル

- ・ CSPやアラミド繊維を中心に販売堅調で増収
- ・ 原燃料価格上昇やCSPの一時費用増等で減益

売上高



営業利益



マテリアル事業

- アラミド繊維は全般的に販売堅調、値上げ浸透
- 炭素繊維は北米新工場立上げ費用等が利益押し下げ
- ポリカーボネート樹脂は市況の大幅悪化の影響を受けつつも、高付加価値品への販売シフトにより影響を軽減

繊維・製品事業

- 衣料繊維では機能性素材等の販売が好調、産業資材では短繊維原綿等の販売が好調であったが、原材料価格上昇影響有り

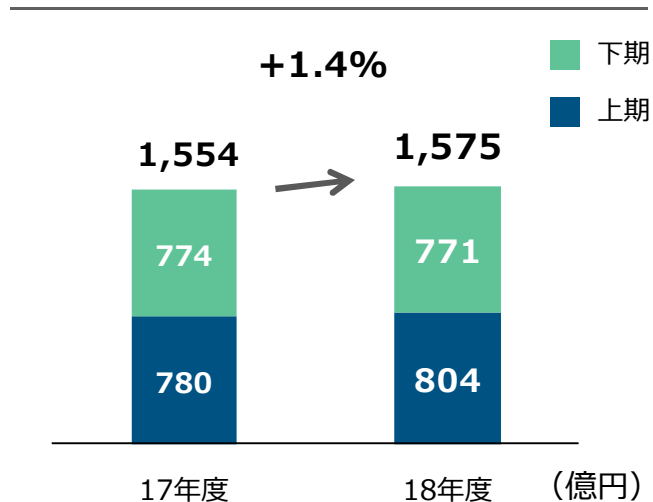
複合成形材料事業ほか

- CSPの自動車向け量産部品の販売は堅調に拡大したが、原料価格上昇や新規受注に伴う一時費用増が利益押し下げ

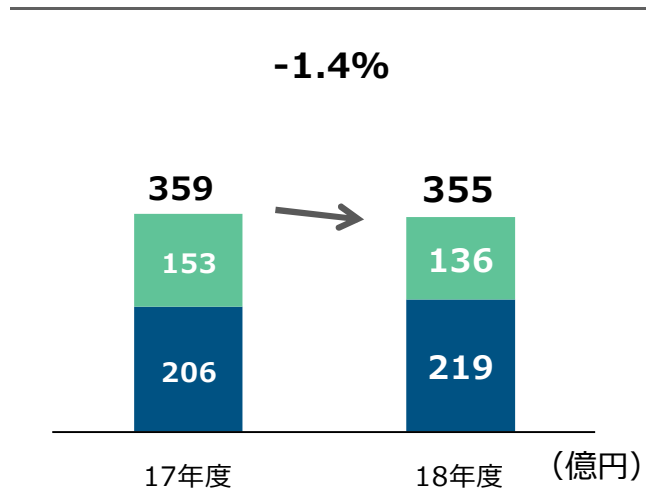
ヘルスケア

主力製品・サービスの販売堅調

売上高



営業利益



医薬品分野

- 前期計上した医薬品候補導出対価（30億円）が今期はなく、さらに今期は薬価改定年であったが、高尿酸血症・痛風治療剤フェブリク等の販売拡大でカバー

在宅医療分野

- HOT用酸素濃縮装置は携帯型製品の品揃え充実も貢献し、高水準のレンタル台数を維持
- 睡眠時無呼吸症候群治療装置（CPAP）は睡眠評価装置「SAS-2100」の活用等でレンタル台数が伸長

新規ヘルスケア分野

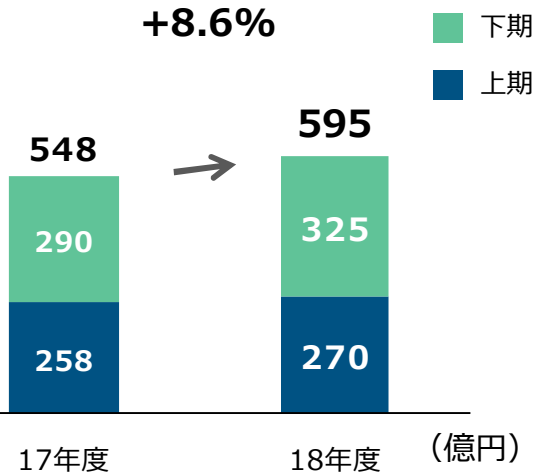
- 埋め込み型医療機器において人工関節や脊椎領域製品を中心に順調に推移

その他

IT事業が堅調に推移

売上高

+8.6%

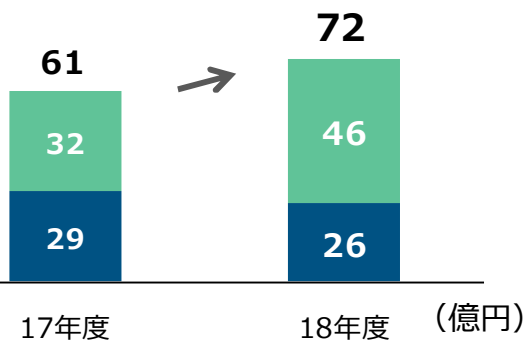


IT事業

- 電子コミック配信サービス「めちゃコミック」が好調
- ITサービス分野では、病院向け就業管理システムの販売が順調に推移

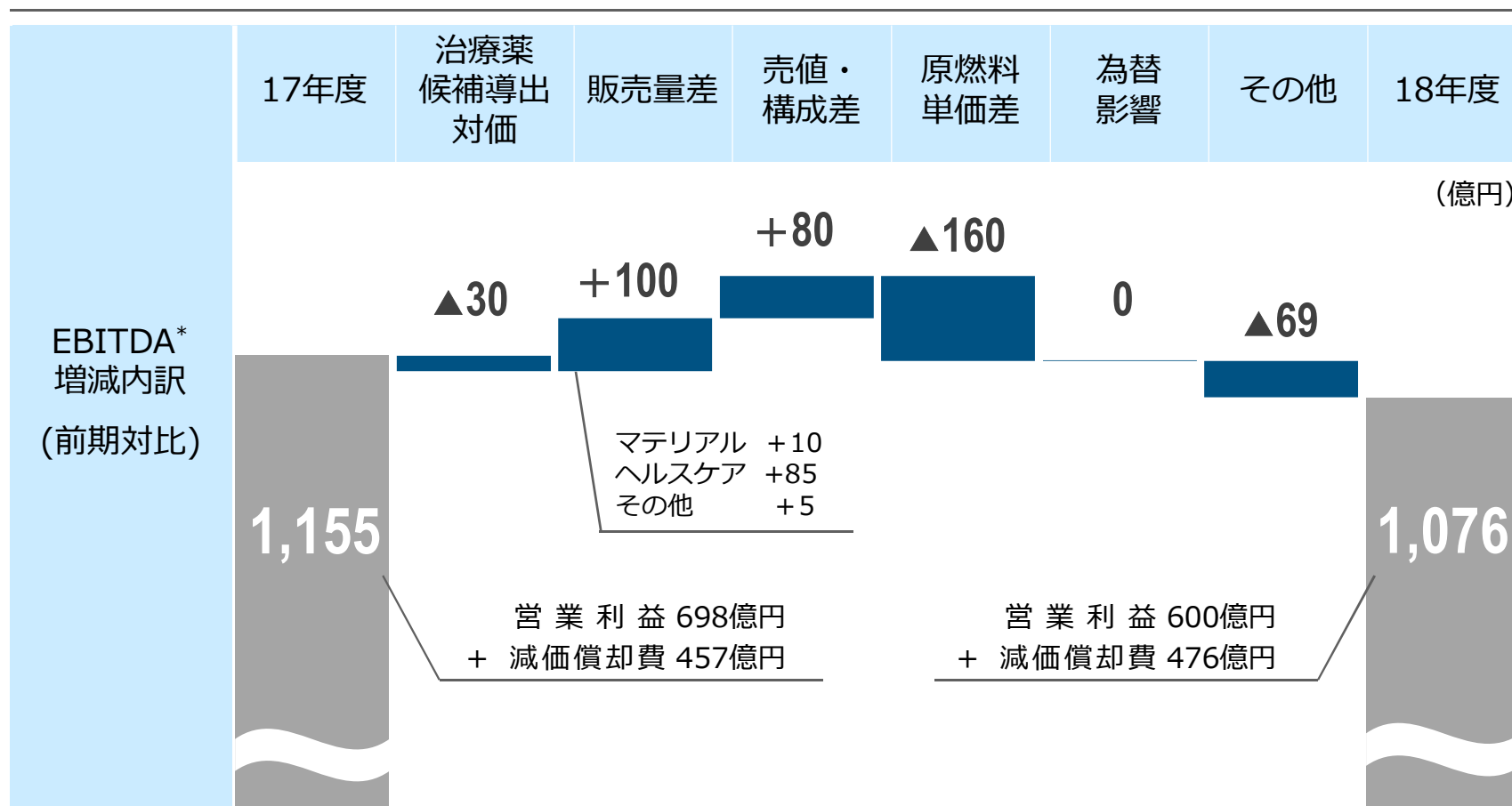
営業利益

+16.7%



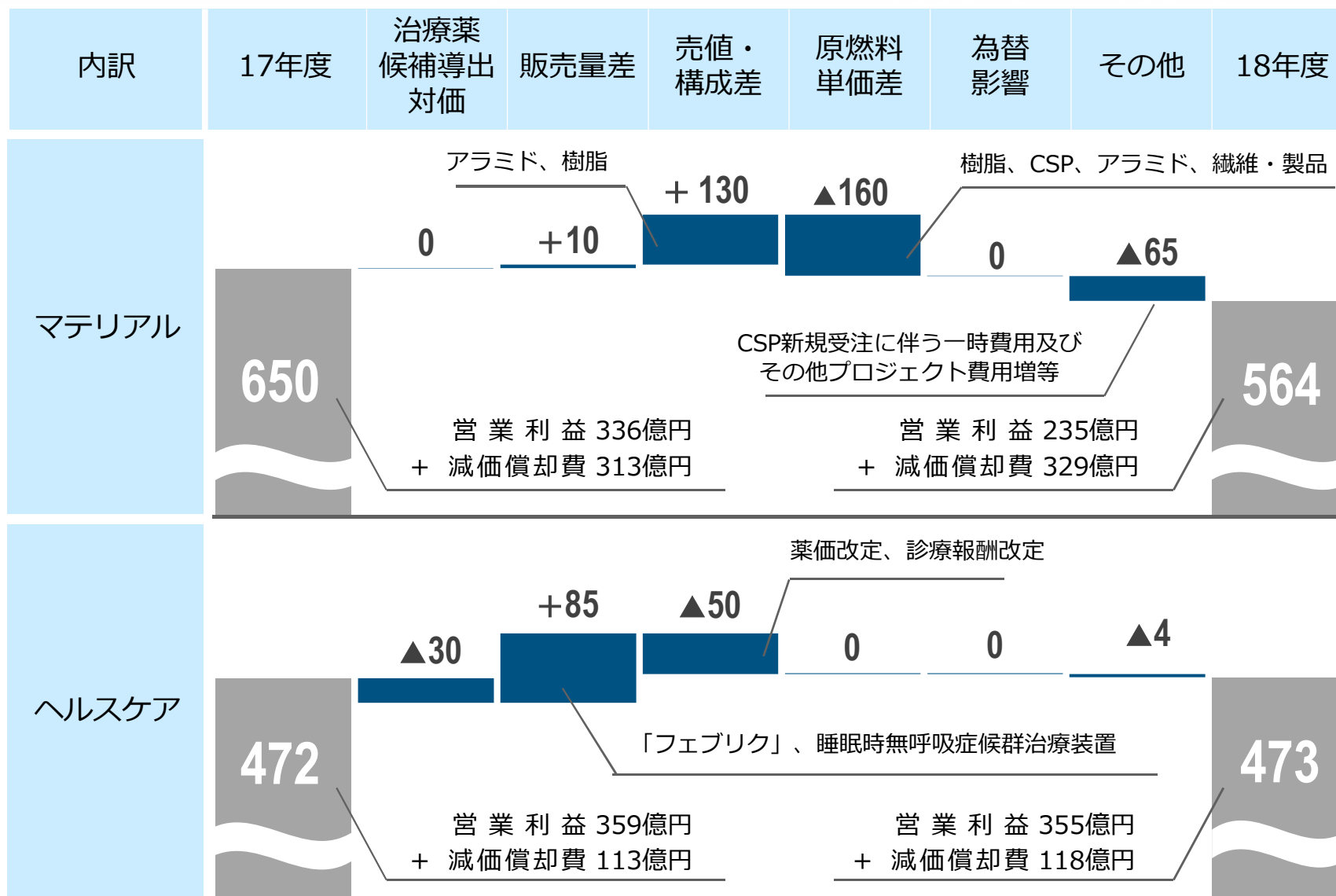
◆ EBITDA*増減内訳 (前期対比)

・ 販売は堅調も、原燃料価格上昇やCSPの新規受注獲得に伴う一時費用増等で減



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*増減内訳 (前期対比) (億円)



* 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

2. 2019年度 業績見通しの概要

◆ 2019年度 運営方針

マテリアル

- **複合材料・部品ビジネスの拡大** - 米国での収益性回復と欧州、中国への展開推進
- **基礎収益基盤の強化**
 - 需要堅調なアラミド繊維の生産能力増強と販売拡大
 - 将来の航空機向け中間材料供給拡大に向けた炭素繊維の生産能力増強・中間材料開発の推進
 - 樹脂の高付加価値品比率の拡大
- **繊維・製品事業** - 生産販売一貫体制による成長シナリオ推進

ヘルスケア

- **医薬品事業と在宅医療事業における資源投入最適化**
- **新規ヘルスケアビジネスの創出・拡大**
- **基礎収益基盤の強化**
 - フェブリクの国内売上最大化と導出・導入を含む効率的な新薬開発推進
 - 在宅医療分野の既存事業拡大による収益基盤強化

共通

- **ESG経営の更なる推進（TCFD支持を表明）**
- **デジタル技術の活用を含めた生産性向上や本社構造改革の推進**
- **グローバルでの成長・拡大を支える経営基盤強化**

業績指標

- ROE 10%以上、営業利益ROIC 8%以上 という中期目標は達成見込み
- EBITDA 中期目標は未達見通しだが、達成の努力継続

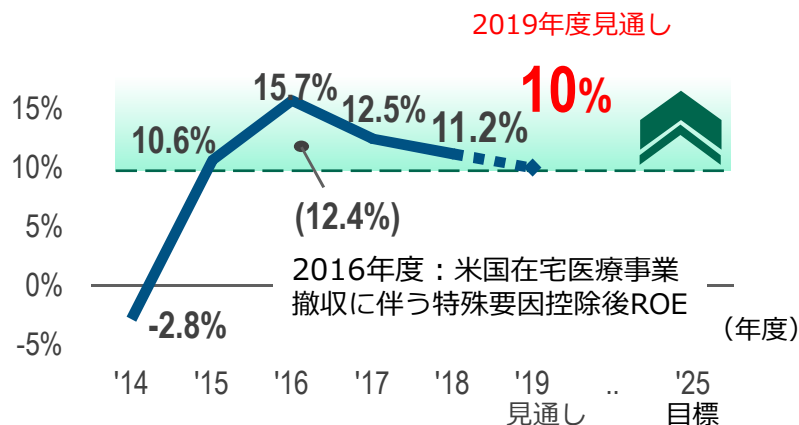
中期目標

ROE*1 **10%以上**

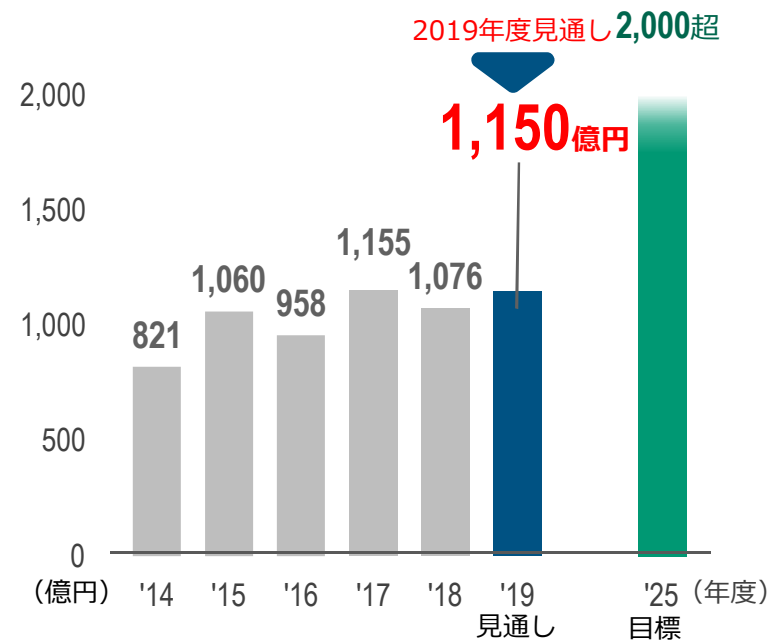
中期目標

EBITDA*3 2019年度 **1,200億円超**
2025年度 **2,000億円超**

推移



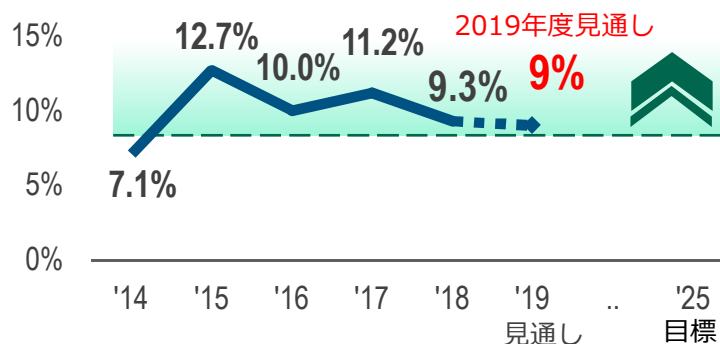
推移



中期目標

営業利益ROIC*2 **8%以上**

推移



*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

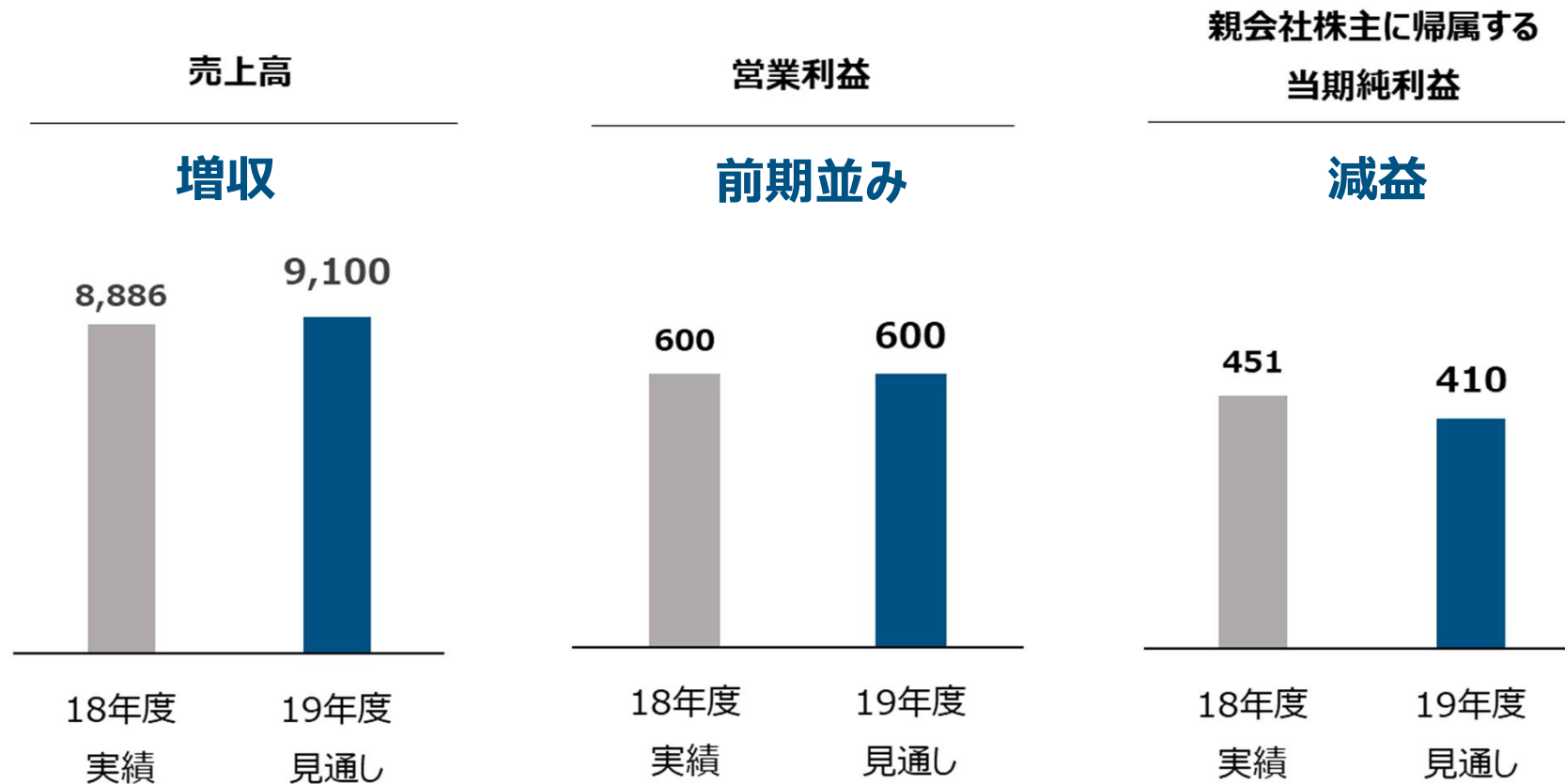
*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

業績見通しハイライト

ヘルスケアの減益をアラミド繊維を中心としたマテリアルの増益でカバーし、営業利益は前期並みを維持

(単位：億円)



◆ 業績見通し

	(億円)					(億円)		
	18年度 実績	19年度 見通し	差異	増減率		18年度 実績	19年度 見通し	差異
売上高	8,886	9,100	+214	+2.4%	フリー・キャッシュ・フロー	396	50	-346
営業利益	600	600	0	0.0%	設備投資 ^{*4}	628	700	+72
経常利益	603	600	-3	-0.4%	減価償却費	476	550	+74
親会社株主に帰属 する当期純利益	451	410	-41	-9.0%	研究開発費	364	380	+16

ROE ^{*1}	11.2%	10%	-1%
営業利益ROIC ^{*2}	9.3%	9%	-0%
EBITDA ^{*3}	1,076	1,150	+74

- *1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出
 2 「営業利益÷投下資本」にて算出 * 純資産+有利子負債-現金及び預金
 *3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出
 *4 設備投資には無形固定資産を含む

2019年度見通し 前提条件

為替レート 米ドル=110円、ユーロ=125円
 原油価格(Dubai) 65米ドル/バレル

【参考】2018年度実績

為替レート 米ドル=111円、ユーロ=128円
 原油価格(Dubai) 69米ドル/バレル

2019年度 配当金見通し

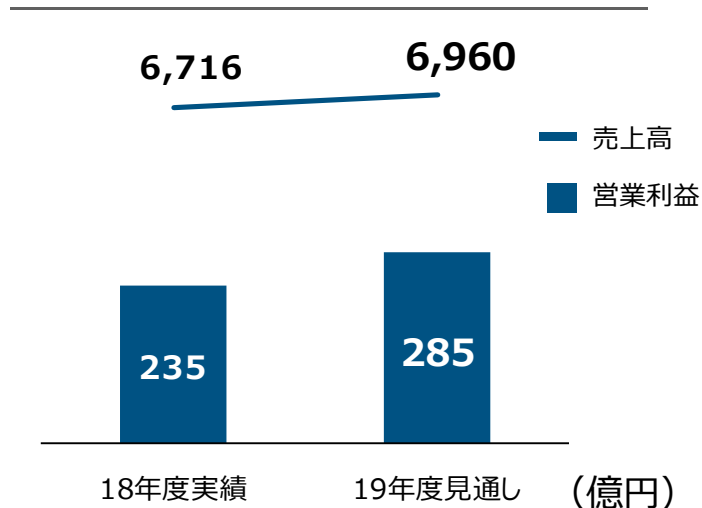
中間 30円/株 期末 30円/株 年間 60円/株

【参考】2018年度 配当金

中間 30円/株 期末 40円/株 年間 70円/株
 (期末:100周年記念配当10円/株を含む)

セグメント別業績見通し
対前期

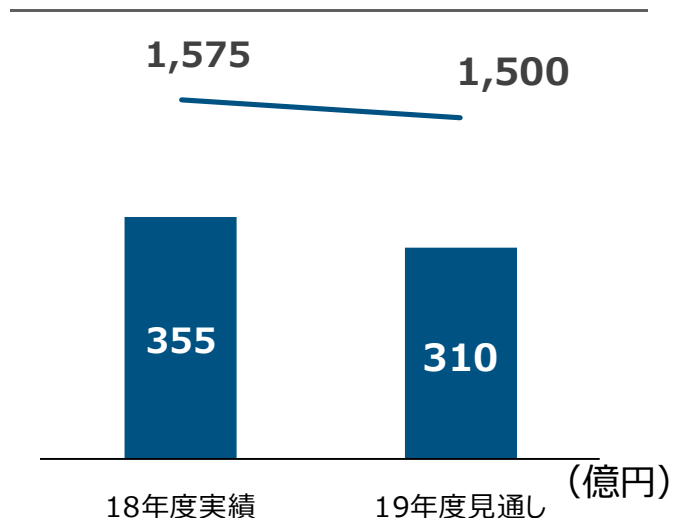
マテリアル



増収・増益

- アラミド繊維の販売増や CSP の販売増及び生産性改善が、ポリカーボネート樹脂の市況低迷継続による影響をカバーし増収・増益の見通し

ヘルスケア



減収・減益

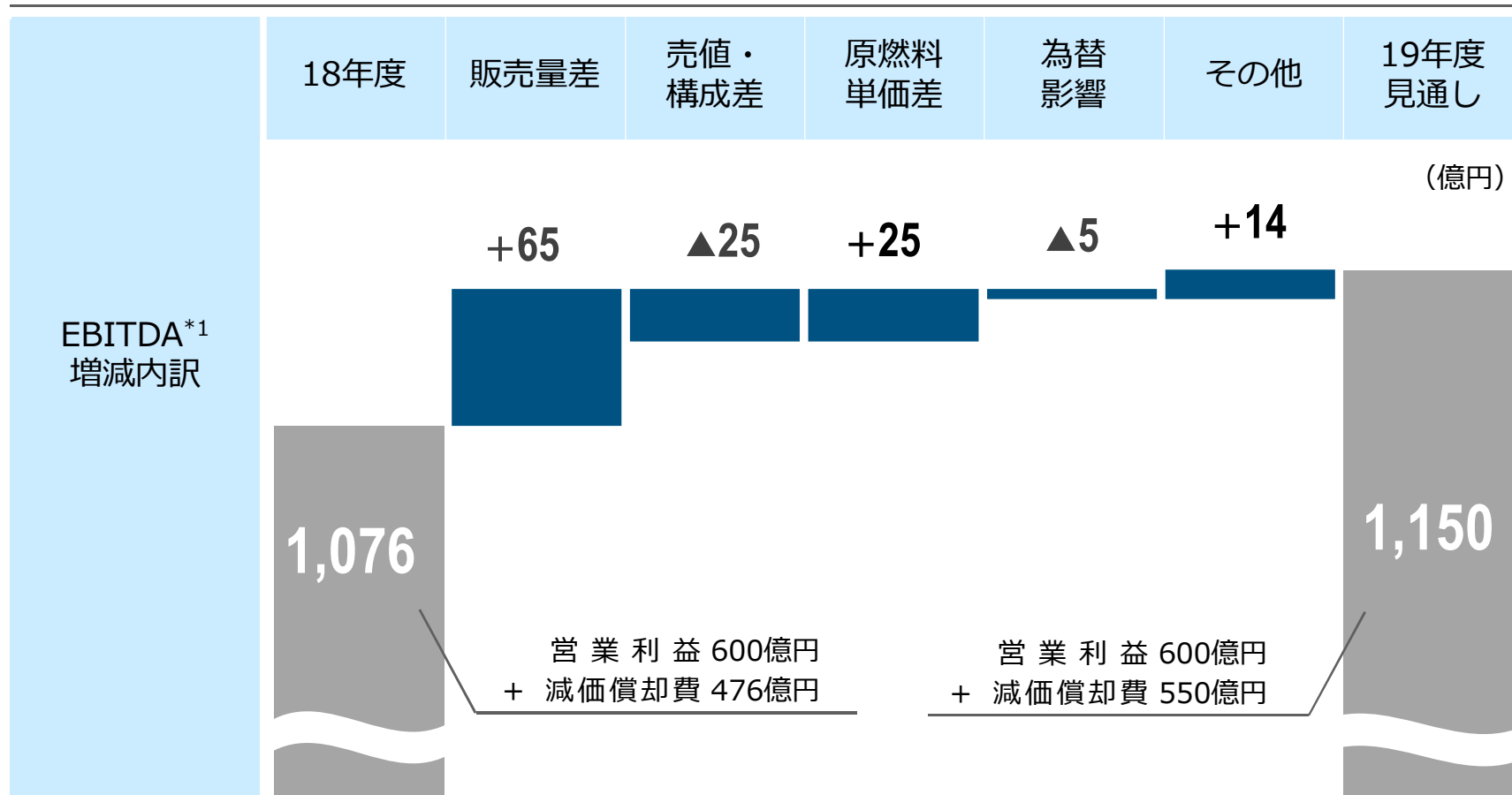
- フェブキソスタット (国内商標 フェブリク) は国内は拡大するが、海外で減少。在宅医療も拡大の見込みだが、全体で減収・減益の見通し。

フェブリク

- 国内再審査期間の2年間延長 (2021年1月まで) が決定*
- *国内は2022年度前半まで後発品の参入は想定されない
- 中国では、2018年9月に許認可を取得

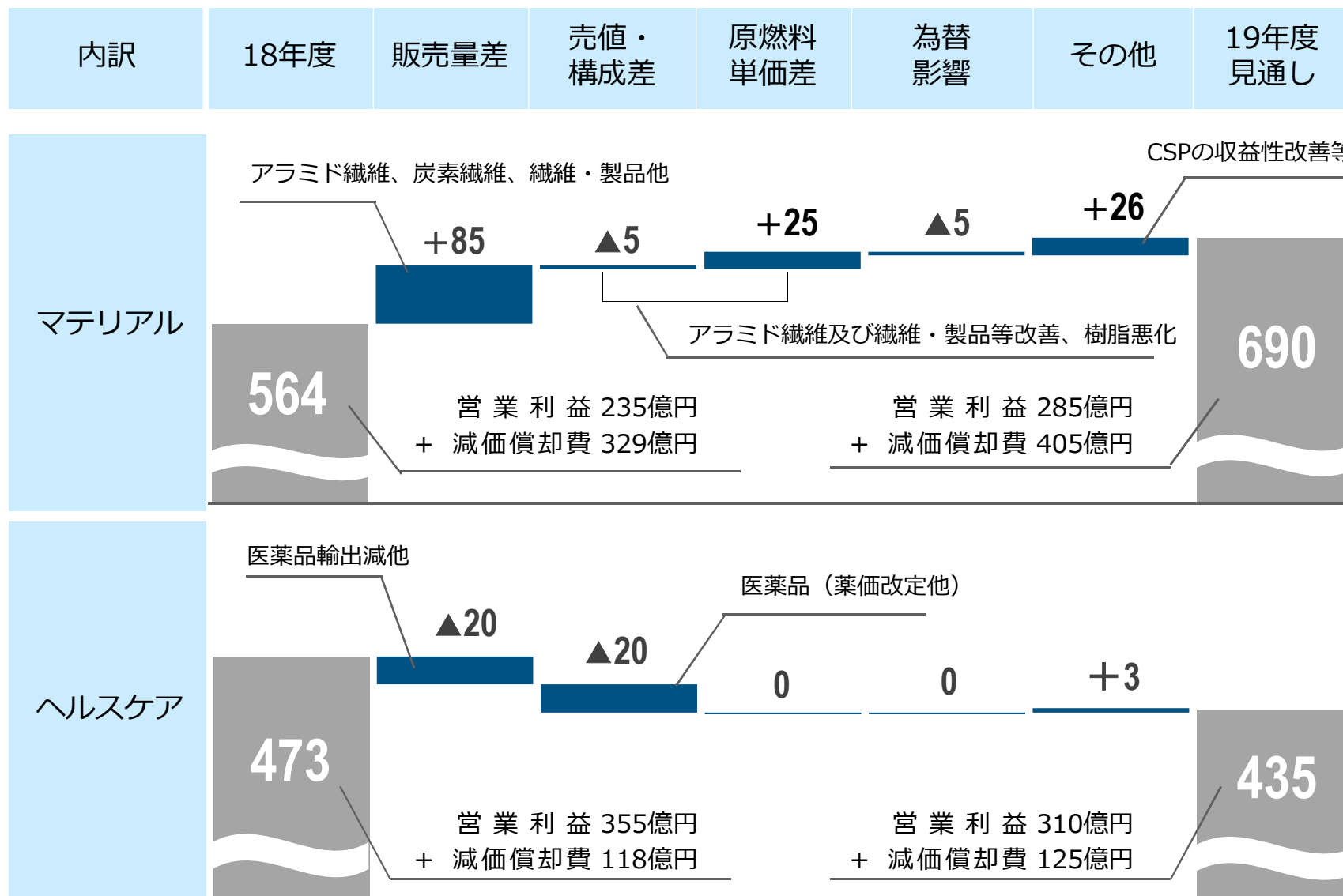
◆ EBITDA* 増減内訳 (前期対比)

アラミド繊維他の販売増が寄与し、前期比増加の見通し



* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA * 増減内訳 (前期対比) (億円)



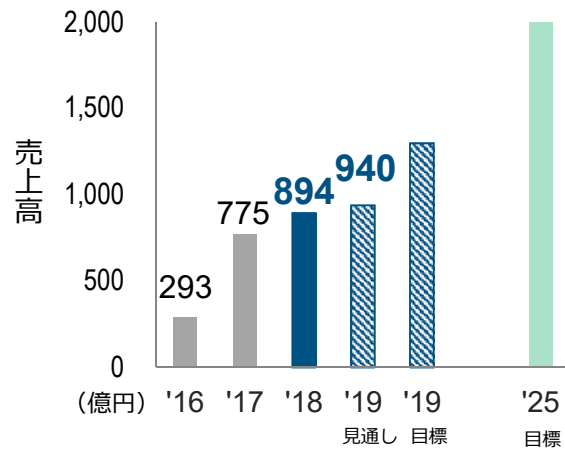
* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

発展戦略（新規事業）の進捗

- ・ マテリアルは2025年度目標*に向けて売上高拡大中
- ・ ヘルスケアはM&A候補の探索継続

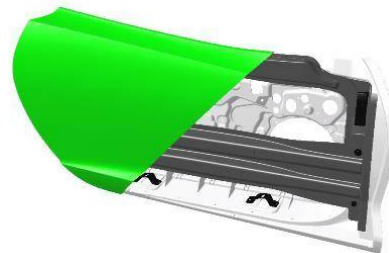
* 現中期計画（2017-2019）で提示した2025年度の新規事業目標

マテリアル 新規事業



マルチマテリアルによるドアモジュールの開発

自動車の軽量・高強度化、デザイン自由度の向上、および製造工程の短縮などに貢献する、コンポジット製の座席ドアモジュールを開発。スチールを使用した従来のドア部品に比べて、強度を保ちながら約35%の軽量化に成功

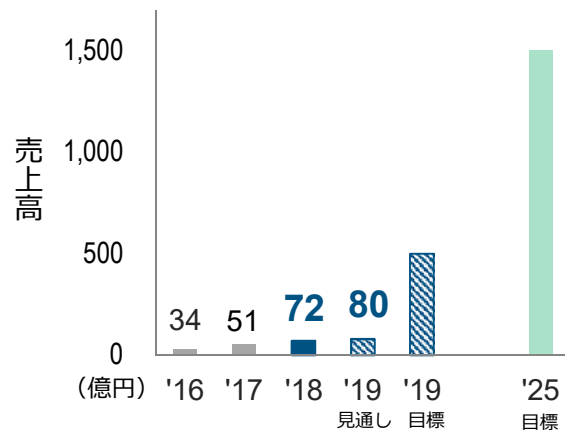


「JECワールド2019」に出展したサンプル（イメージ）

▶自動車部品の軽量・高強度コンポジット化の加速に向け、様々な取組を推進

グループ内外の素材や技術を結集し、マルチマテリアルでの部品供給メーカーとして、ソリューション提案力を強化

ヘルスケア 新規事業



睡眠チェックサービス「Sleep Styles スリープチェック」の提供

株式会社ベネフィットワン・ヘルスケアとの業務提携により、ストレスチェック利用者に対して、帝人グループが展開する「Sleep Styles 睡眠力向上プログラム」をカスタマイズした「スリープチェック」を提供。睡眠に関わるリスクの改善をサポートし、企業の健康経営ならびに医療費の適正化に寄与。



■ 株式会社ベネフィットワン・ヘルスケア 健保組合などに対し、健診予約代行、特定保健指導など、疾病予防のワンストップ サービスを提供。2015年12月より義務化されたストレスチェックにも対応

3. 参考資料

◆ セグメント別 経営指標

				(億円)	
	17年度 実績	18年度 実績	差異	19年度 見通し	差異 前期対比
EBITDA ^{*1}					
マテリアル	650	564	-86	690	+126
ヘルスケア	472	473	+1	435	-38
その他	78	100	+22	105	+5
消去又は全社	-45	-61	-16	-80	-19
合計	1,155	1,076	-79	1,150	+74
					(%)
営業利益ROIC ^{*2}					
マテリアル	9%	5%	-3%	6%	+1%
ヘルスケア	29%	35%	+5%	34%	-1%
合計	11%	9%	-2%	9%	-0%

*1 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産+有利子負債-現金及び預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前期対比)

(億円)

	18年度実績			19年度見通し			差異 年間
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高							
マテリアル事業	1,344	1,295	2,639	1,295	1,325	2,620	-19
繊維・製品事業	1,540	1,643	3,183	1,650	1,750	3,400	+217
複合成形材料事業ほか	436	458	894	455	485	940	+46
マテリアル 計	3,320	3,396	6,716	3,400	3,560	6,960	+244
ヘルスケア	804	771	1,575	760	740	1,500	-75
その他	270	325	595	300	340	640	+45
合計	4,394	4,492	8,886	4,460	4,640	9,100	+214
営業利益							
マテリアル	146	89	235	130	155	285	+50
ヘルスケア	219	136	355	175	135	310	-45
その他	26	46	72	25	50	75	+3
消去又は全社	-28	-33	-61	-30	-40	-70	-9
合計	362	238	600	300	300	600	0

◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 見通し
ROE ^{*1}	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	10%
営業利益ROIC ^{*2}	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	9%
EBITDA ^{*3}	1,060	958	1,155	1,076	1,150
1株当たり当期純利益(円) ^{*4}	158.1	254.9	231.3	232.4	213.8
1株当たり配当金(円) ^{*4}	35	55	60	70 [*]	60
総資産(億円)	8,234	9,641	9,820	10,207	10,700
有利子負債(億円)	3,033	3,762	3,442	3,692	3,800
D/Eレシオ ^{*5}	1.01	1.11	0.88	0.90	0.9
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	41%

*100周年記念配当10円/株を含む

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本^{}」にて算出

*純資産＋有利子負債－現金及び預金

*3 「営業利益＋減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

◆ 連結貸借対照表

(億円)

	16年度	17年度				18年度			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末*	6月末	9月末	12月末	3月末
資産									
流動資産	4,668	4,736	4,595	4,755	4,779	5,205	5,465	5,227	5,239
固定資産	4,973	4,987	4,943	5,031	5,041	5,076	5,063	4,930	4,968
合計	9,641	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207
負債・純資産									
負債	6,122	5,966	5,560	5,673	5,737	6,047	6,193	5,860	5,934
(内 有利子負債)	3,762	3,862	3,411	3,475	3,442	3,852	4,007	3,740	3,692
純資産	3,518	3,757	3,978	4,113	4,082	4,234	4,335	4,297	4,272
合計	9,641	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207

* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

◆ 連結損益計算書

(億円)

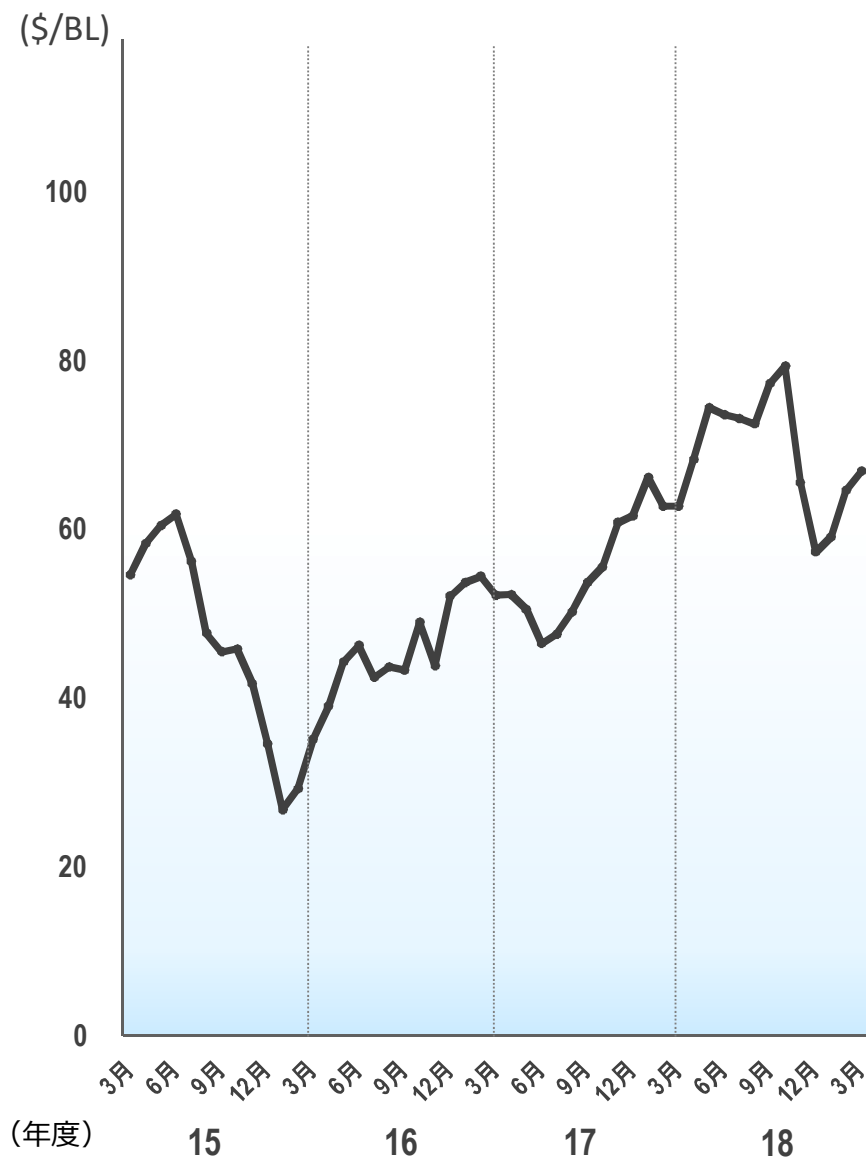
	17年度				18年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,982	2,064	2,100	2,203	2,164	2,230	2,202	2,289
売上原価	1,313	1,398	1,428	1,518	1,477	1,556	1,564	1,610
売上総利益	669	666	672	685	687	674	638	679
販管費	478	483	485	549	505	494	519	560
営業利益	191	184	188	135	183	179	119	119
営業外損益	9	-5	1	-25	29	6	-4	-29
(内 金融収支)	7	-4	3	-3	6	-6	1	-4
(内 持分法投資損益)	3	5	1	3	3	11	2	-12
経常利益	200	179	189	110	212	186	115	90
特別損益	-5	51	-13	-33	49	-13	-6	-29
税金等調整前当期純利益	196	230	176	77	261	173	109	61
法人税等	60	64	68	16	64	24	37	11
非支配株主に帰属する 当期純利益	2	8	3	3	2	5	4	7
親会社株主に帰属する 当期純利益	134	158	105	58	195	144	68	43

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

(億円)

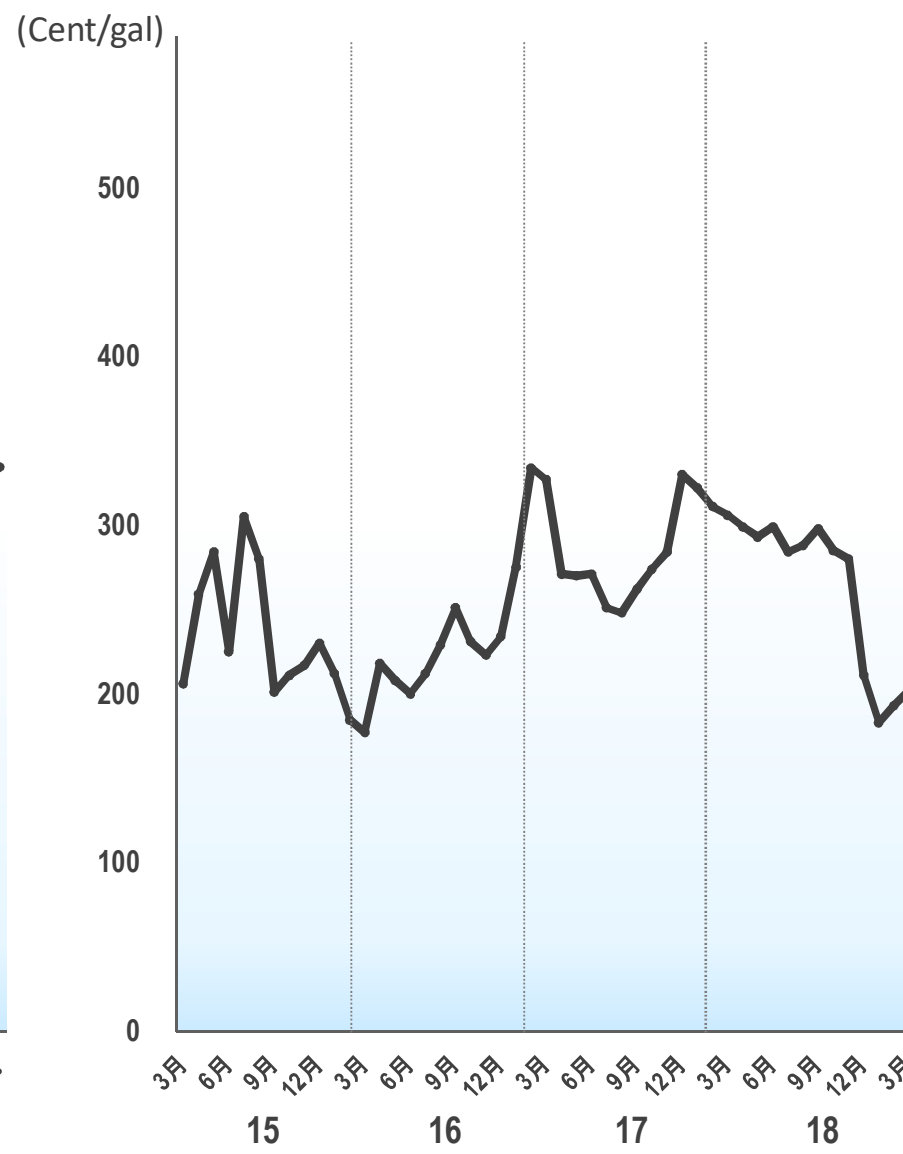
	17年度				18年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高								
マテリアル事業	604	630	632	675	687	657	628	667
繊維・製品事業	664	737	755	776	738	803	812	831
複合成形材料事業ほか	194	179	174	227	219	217	227	231
マテリアル 計	1,463	1,545	1,561	1,678	1,644	1,676	1,667	1,729
ヘルスケア	397	383	408	365	392	412	397	374
その他	122	136	130	159	128	142	139	187
合計	1,982	2,064	2,100	2,203	2,164	2,230	2,202	2,289
営業利益								
マテリアル	82	87	73	94	90	56	27	62
ヘルスケア	118	88	115	38	99	119	94	42
その他	10	19	12	20	6	19	13	33
消去又は全社	-19	-11	-12	-17	-13	-15	-15	-18
合計	191	184	188	135	183	179	119	119

◆ ドバイ原油価格推移



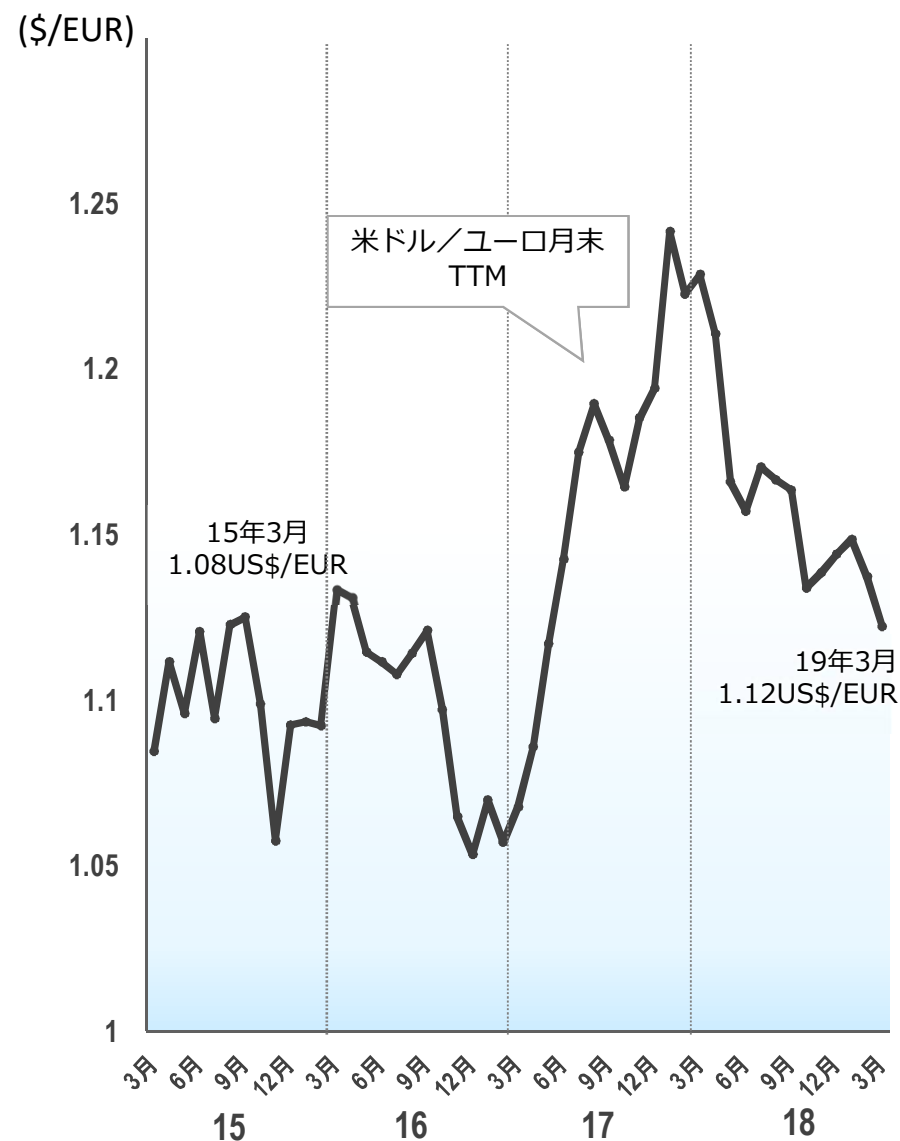
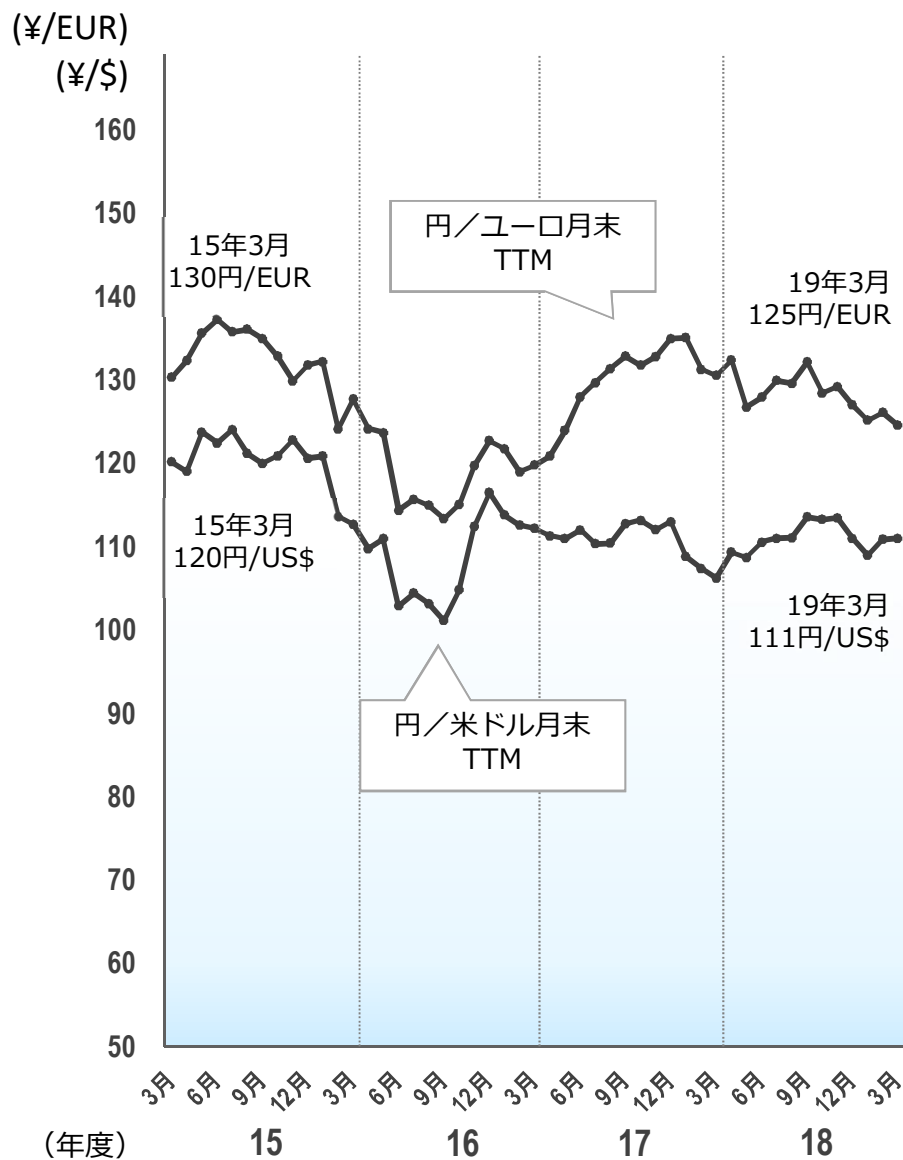
【出所：Platts社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：Argus media社のDATAを基に弊社推定】

◆ 為替レート推移 (円/米ドル、円/ユーロ、米ドル/ユーロ)



◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	17年度					18年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	74	75	88	69	307	87	87	102	82	358
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	28	28	30	22	109	26	25	27	22	100
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	9	9	9	5	31	5	4	4	4	17
ベニロン®	重症感染症治療剤	13	13	14	11	51	13	13	14	12	53
ムコソルバン®	去痰剤	13	12	15	12	51	10	10	12	9	41
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、神経内分泌腫瘍治療剤	4	6	8	7	25	8	9	10	10	37
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	18	5	5	6	4	20
ラキシベロン®	緩下剤	4	5	5	3	17	4	3	3	3	13
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	2	14	3	2	2	1	8
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3	3	11

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2019年3月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase II	Phase III	承認申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域	KTP-001	ITM-058 NT 201		
呼吸器 領域	PTR-36			
代謝・循環器 領域	TCF-12 TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK* ¹	ITM-014T		TMX-67 (中国)* ² STM-279* ³
その他	JTR-161* ⁴	GGs-MPA	GGs-CIDP* ⁵ GGs-ON* ⁶	

*1 2018年7月フェブリク®の痛風、高尿酸血症の小児患者への適応拡大に向けた第II相試験に着手

*2 2018年9月に中国で「痛風患者における高尿酸血症治療」に対する適応の承認を取得

*3 2019年3月に「アデノシンデアミナーゼ欠損症」に対する製造販売承認を取得

*4 2018年10月 急性期脳梗塞の適応取得に向けた第I/II相試験に着手

*5 2018年9月にベニロン®の慢性炎症性脱髄性多発根神経炎への適応拡大についての承認申請を実施

*6 2019年3月にベニロン®の視神経炎への適応拡大についての承認申請を実施

◆ 新規開発医薬品 (2019年3月末現在)

【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2018年9月承認取得
STM-279 (エラペグアダマラーゼ (遺伝子組換え))	ADA (アデノシン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社 2019年3月承認取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2018年9月承認申請
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年3月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2019年3月末現在)
【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201	A1型ボツリヌス毒素活性本体/上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加)

◆ 新規開発医薬品 (2019年3月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病（進行性）における尿毒症症状の改善及び末期腎不全（ESRD）発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

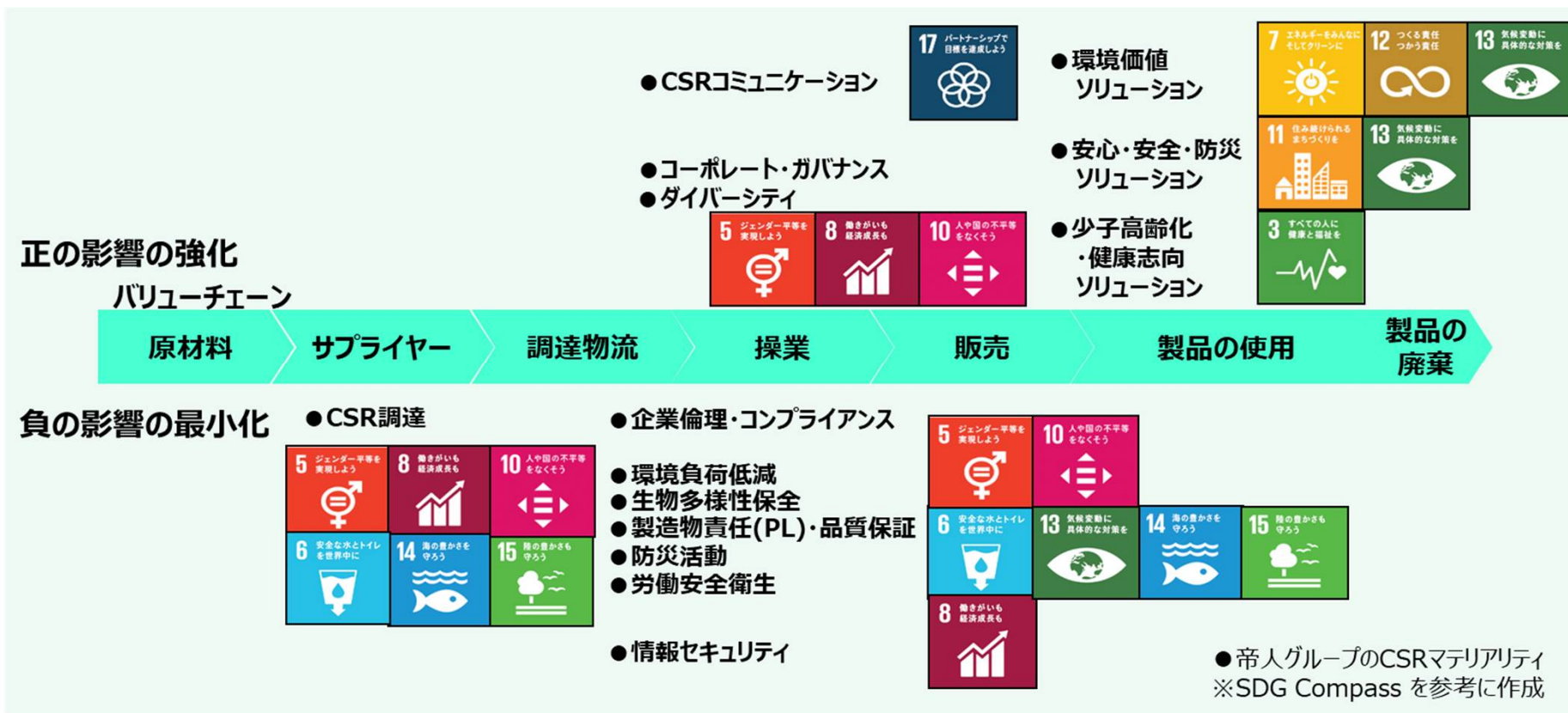
◆ 新規開発医薬品 (2019年3月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67HK (フェブキソスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品
JTR-161 (ヒト歯髄由来幹細胞)	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髄由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

非財務情報
帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます

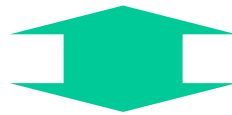


非財務情報 帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

SDGsに向けた帝人グループの取り組み

<重点領域と製品・サービス>

<p>環境価値 ソリューション</p>  <p>マルチマテリアルによる 軽量化素材・部材</p>	<p>安心・安全・防災 ソリューション</p>  <p>超軽量天井材 「かるてん」</p>	<p>少子高齢化・ 健康志向 ソリューション</p>  <p>地域包括ケアシステム 「バイタルリンク」</p>
---	--	---



<トピックス>

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言に対する支持表明

帝人グループは「未来の社会を支える会社になる」ことを目指し、環境価値ソリューションの提供や自らの環境負荷低減の活動などを積極的に進めていく中で、2019年3月に、金融安定理事会により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」の提言を支持することを表明しました。今後、気候変動が帝人グループの事業に与えるリスクや機会についての情報開示の拡充を進めていきます。支持表明にあたり、CEOが以下のステートメントを発表しました。

「私たちは、TCFDの提言が、すべての企業にとって、気候関連のリスクと機会に関するステークホルダーとの対話のプラットフォームになると考えます。私たちは、TCFDを支持し、その提言に従って透明性高く情報開示していきます。」

GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定

（経済産業省と東京証券取引所との共同主催）

「なでしこ」
女性活躍推進



「ホワイト500」
健康経営推進



「攻めのIT経営」
IT活用推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions